～集まれくまのっこ～

土曜くまのっこ教室　【熊野町】

教室の概要

○　教室の目的

学校休業日において生涯学習施設や小学校の施設を使用した遊びやスポーツ，体験活動をとおして，異学校･異学年の児童や地域の大人と交流を図り，児童の自主性や社会性及び創造性を養い，児童の健全育成に寄与するとともに，地域の教育力の向上を図る。

○　教室開設の経緯など

体験活動を文化中心と体育中心とに分けて，教室を開催している。文化中心の教室は，「土曜くまのっこ教室」として募集し，学校ではできない体験活動を中心に，集団での行動から社会性を学ぶことを目的としている。(体育については「あそびの学校」として募集し，ニュースポーツを中心としたスポーツを通して体力の向上とスポーツを通して豊かな心をはぐくんでいる。)

【開始年度】平成 20 年度	【実施校区】町内４小学校区
【開催場所】町民会館　他	【コーディネーター人数】１人
【開催日・開催時間】原則第１・３土曜日　10:00～12:00	【安全管理員・学習アドバイザー人数】２人
【年間開催日数】19 日	
【参加学年・平均参加人数】小学校１～６年　33 人	【ボランティア人数】参加児童の保護者が協力

活動内容

○　年間スケジュール（平成 24 年度）

町民会館をベースとしながら，町内の他の公立施設も利用し，体験学習を実施している。

６月	７月	８月	９月	10 月
玉ねぎ収穫 ワクワク学び隊（集団遊び）	カレー作り	地域行事へ参加（そうめんながし）	飛行機飛ばし大会	ピザ作り
11 月	12 月	１・２月		
芋ほり ワクワク学び隊（実験）	三世代もちつき ワクワク学び隊（工作）	凧作り ワクワク学び隊（レクリエーション）		

※活動上の工夫

ケンダマ･将棋･おはじきなど昔遊びの道具を充実させ，早く来た子が自由に遊べるようにしている。

○　特徴的な活動

畑作り･･･ボランティアの人の指導のもと，植え付け，収穫の体験　収穫物での調理実習をする。

伝統行事･･･七夕行事など，季節の行事や伝統行事を加味した活動を行っている。

地域行事への参加･･･異世代交流で，物事の善悪について等，地域の方から学ぶ。

～七夕飾りづくり～

調理（ピザ・ホットドック作り）

～ピザ・ホットドック作り～

・食事があるときは食材料費が必要となるので事前申込を受ける。当日は，町内にあるピザ窯のある公園に集合。
・保護者スタッフが班リーダーを務め，班をまとめる。
焼いたピザは班の皆で分けて食べる。皆で楽しく食べることができるよう，班の他の人の行動にも目が向く配慮をする。
・子ども達には大人の指示やルールについて伝え，子ども同士でルールを守ることも重要な決まりとしている。
・ピザ作りは粉に水を入れて捏ねるところからするが，子どもに扱い易いようビニール袋の中で捏ねる。ホットドック作りも同時に行い，全員が関われるよう配慮する。
・食事があるときは，食べ物に感謝する心が育つよう準備･片付けはできるだけ子ども主体になるよう気を配る。

運営上の工夫

○　スタッフの協力・連携
・放課後子ども教室推進事業運営委員がコーディネーターも兼ね，協力している。
・安全管理員等スタッフが毎回終了後に反省会をするとともに，次回の打合せを行っている。

○　安全管理方策の充実
・安全管理として，児童は保険に加入している。子どもたちには，活動前に怪我はなぜ起きるのかを考えさせ，責任を持って行動できる子どもを育てている。
・地域でのルールも知らせ，地域の人･スタッフは，ルールを守れていない時には，タイミングを逃さずに，注意している。地域の人に守られている活動であることに気づかせている。

○　プログラムの企画・立案の工夫
・毎年度，可能な限り，新しいものを取り入れ，参加者を増やすよう努めている。
・協力スタッフとして，子どもとともに参加される保護者には名札をつけてもらい，見守り，支援をしてもらっている。

○　「くまのっこ通信」の発行，学校内での掲示
・「くまのっこ通信」として，学校を通して，子どもに家庭に持ち帰ってもらうとともに，クラスに掲示することでくまのっこ教室の実施状況に関心を高めてもらえるようにしている。

事業を実施して

【参加者の声】
（児童の声）　いろんな学校の人と交流がもてるので良かった。
（保護者の声）　学校では体験できないことをさせてもらってありがたい。

【成果と課題】
・体験することで子ども自らが考えて行動するようになってきた。特に調理など，包丁の扱いは回を重ねると目に見えて上達している。
・指導者などが説明するのを良く見たり，分からない時近くの子を観察したり，聞いたりするなど，自分で考え行動する姿が見られるようになった。
・気軽に参加できるよう場所･回数を考慮するとともに，実施施設との協力体制を整える必要がある。